

岩石標本づくりの共同開発に見るジオパーク連携の可能性

From “Making an original rock specimen” co-development to geopark collaboration

*原田 拓也¹、佐藤 充¹、山崎 由貴子²、熊谷 誠³、豊田 康裕⁴、山田 健一⁵

*Takuya Harada¹, Mitsuru Sato¹, Yukiko Yamasaki², makoto kumagai³, Yasuhiro Toyoda⁴, Ken-ichi Yamada⁵

1. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会、2. 湯沢市ジオパーク推進協議会、3. 三陸ジオパーク推進協議会、4. 気仙沼市立鹿折公民館、5. 国立花山青少年自然の家

1. Mt. Kurikoma Area Geopark Promotion Committee, 2. Yuzawa Geopark Promotion Group, 3. Sanriku Geopark Promotion Council, 4. Kesennuma City Shishiori Public Hall, 5. National Hanayama Youth Outdoor Learning Center

はじめに

所定の台紙に同定済みの岩石を貼り付け、岩石標本を製作していくプログラム（大野，2014 JpGU）が、複数のジオパーク（以下GP）で行われている。参加者は、そのGPの地質・地形や生態系、人々の営みとの関わりを、バーチャルジオツアー形式で聞きながら、説明に関係した岩石を貼り付けて標本の完成を目指す。少ない機材で場所を問わず、年齢や性別を限定することなく実施できることから、広い年齢層にジオパークの楽しみ方をPRする機会となりうる。

栗駒山麓GPにおいては、2016年に栗駒山麓GPバージョンの岩石標本づくりを開発し、同年10月の「サイエンス・プラス（主催 東北職業能力開発大学校）」で初めて実施した。2016・2017年の「サイエンス・アゴラ」には、銚子、四国西予、Mine秋吉台、おおいた豊後大野、天草らGPと共に参加した。その後も、地域のイベントや学校教育の場でこのプログラムを実施し、2017年7月には三陸GPと、2018年1月にはゆざわGPと複数GP間で連携した岩石標本づくりを開発・実施している。

本報告では、三陸GPとゆざわGPと共同開発・実施した岩石標本づくりの可能性と有効性について論じる。

実施例1 三陸ジオパークとのコラボ

沿岸部に位置する三陸GP（気仙沼エリア）と内陸部に位置する栗駒山麓GP。同じ宮城県にありながら、異なる地質や自然を有し、独特の文化や暮らしが育まれている。三陸GPとの共同開発では、地質の観点からそれぞれの地域の特色を知り、地質・地形に起因した文化や暮らし、災害や防災について、岩石を貼りながら参加者に考えてもらう内容とした。

この共同開発は、2017年7月に開催された「子ども環境探検隊 三陸ジオ編（主催 国立花山青少年自然の家）」で実施し、宮城県北部を中心とした子どもたち45名が参加した。

実施例2 ゆざわジオパークとのコラボ

ゆざわGPと栗駒山麓GPは、栗駒・鬼首火山を中心とした奥羽脊梁山脈の形成史を有するも、山脈を挟んで東西に位置するため、類似した生態系や文化的交流がありながら、主に気候の違いに起因する特徴ある文化が双方につくられた。ゆざわGPとの共同開発では、奥羽脊梁山脈の形成史に関わる岩石を貼りながら、地質・地形の恩恵を受けてきた人々の営みと文化の交流について学び、両GPに足を運びたいような内容とした。

この共同開発は、2018年1月に仙台市のショッピングセンター 泉パークタウン タピオで開催した「タピオ大学」及び「栗駒山麓・ゆざわジオパークフェスティバル」で実施し、両日あわせて62名が参加した。

共同開発による岩石標本づくりの有効性

三陸GP及びゆざわGPと岩石標本づくりを共同開発・実施する中で、一つのGPでは完結できない地質・地形と関係した生態系や人々の営み、物語の構築及び語りを新しい視点でとらえ、この取り組みに反映できたと考える。そして、一つのGPを題材とした岩石標本づくりはもちろん、複数のジオパークを結んだ岩石標本におい

ても、参加者に気づきと想像の機会を提供し、GPの楽しみ方を体験してもらうことができたと考える。

キーワード：ジオパーク、岩石標本づくり、栗駒山麓ジオパーク、三陸ジオパーク、ゆざわジオパーク

Keywords: geopark, Making an original rock specimen, Mt. Kurikoma Area Geopark, Sanriku Geopark,
Yuzawa Geopark